

留学生に対する日本語学習カウンセリングの意義と 課題：その3 ー学習カウンセリング報告の分析からー

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-06-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 堀井, 恵子, 天坂, 華織, 平井, 君代 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1193

〔研究論文〕

留学生に対する日本語学習カウンセリングの 意義と課題：その3

—学習カウンセリング報告の分析から—

The Significance and Issues on Japanese Study Counseling
For International Students : Part3

—From analysis of study counseling report

堀 井 恵 子
天 坂 華 織
平 井 君 代

キーワード：留学生、学習カウンセリング、隠れたニーズ、つながり

1. 問題とその背景

日本学生支援機構（2019）が発表した外国人留学生在籍状況調査によると、2018（平成30）年5月1日現在の外国人留学生数は298,980人（対前年比31,938人：12.0%増）で2008年の123,829人から順調に増加、留学生30万人計画達成を間近に迎え、同省では「ポスト留学生30万人計画を見据えた留学生計画」（中教審大学分科会第19期将来構想部会）を打ち出している。

このような留学生の増加、多様化の進む中、留学生の支援体制の強化や相談室設置が各大学で行われてきた。大西（2018）では、「学業・進路支援、生活相談、交流支援、トラブル対応、カウンセリング対応を一つの窓口で対応する体制」について述べているが、留学生支援についての研究は様々にある（林・森原2017など）。しかし、その中で、個々の留学生に寄り添い日本語学習を切り口に留学生の学びを深める教室外の実践はあまり見られない。

武蔵野大学には留学生の学習支援として1989年から日本語学習カウンセリングが設置されている。日本語学習カウンセリングは心理カウンセリングとは違い、「学習を進めていく上で出てくる問題を取り上げ、それを明確にし、自らの解決を図るように援助するプロセスを学習カウンセリングと定義する。」（三隅1995）を参考に、「留学生一人一人が日本語を切り口に学習面で授業の不足分を補いながら独り立ちし、また、充実した学生生活を送るようにサポートすること」を目的としている（堀井・山崎1998）。

具体的には、授業期間の月一金の毎日、設定されている時間内に留学生が自発的に来室¹⁾、担

当者(学習カウンセラー:以下、カウンセラー)がこれをサポートする。留学生はある時間を決めて継続的に予約することも、飛び入りで来室することも可能、形態的には、個別対応もグループ単位での対応も行っている。留学生は授業でわからなかったことやレポートの日本語チェック、日本語学習の相談のために来室するが、時には、その延長上に様々な問題や不安についても語っていく場となっている。2018年度は、5人のカウンセラーが2つのキャンパスで従事していたが、全員、武蔵野大学の卒業生・修了生、かつ、日本語教師の資格を持つ。

2. 先行研究

堀井・山崎(1998)は、それまでのカウンセラーによる記録と学生へのインタビューから、学習カウンセリングの意義と課題を問い直し、受け入れ側としてできることの幅を考察した。その結果、学習カウンセリングに対するニーズの変化として①卒業後につながる日本語指導・進路指導希望者の増加、②経済的問題の増加がみられた。また、在学時の学生の学習カウンセリングへの評価と卒業後の留学生への追跡調査、学習カウンセリングを受けた学生のケース別記述から、担当者(カウンセラー)の学習カウンセリングに対する視点の変化として、①きめ細かい個別的、具体的対応、②精神的・情緒的問題への参入、③学習カウンセリングと担当者の位置づけの変化、④他の交流活動への広がり、が明らかになった。そして、ニーズの変化(安らぎの場→正規授業の補い→付加価値の模索)への対処(ニーズのすくいあげ・制度化・よりきめ細かいニーズの見極め)を結論(意義)とし、個別的、発達的問題をいかに明確化させるかにおいて担当者側の技量が求められていること、また、留学生活の上に、実質的な付加価値をつけるべくいかにサポートできるかを課題としている。

堀井・坂井(2004)では、その後の6年間の留学生の増加と多様化(協定留学生・短期留学生・後期入学生の受け入れ)の中での新たな変化について、カウンセリング・ジャーナルと学習者へのアンケートの分析をもとに考察した。その結果、学習カウンセリングが留学生に評価されている点として、①主体的学習:学習者が受身ではなく、自分に何が足りないかを自身で見極め、自分で学習内容を決めることができる、②個別対応:マイペースでできる、恥ずかしくない(例:他の授業では私一人だけのために先生がゆっくり話すのは無理であるが、ここでは私に合わせた速度で話してくれる)、③柔軟性:出席・遅刻等の縛りがゆるい、敷居が低い(オープンスペース—いつでも来られる場)、いろいろな相談もしやすい、が明らかになった。また、カウンセラーは学習者一人一人との「コミュニケーション」の中で、①ニーズの明確化(「気づき」の促し)、②問題の解決(学習実践)を学習者との共同作業として取り組んできたこと、があきらかになった。さらに、新たに見えてきたものとしては、①相互刺激:オープンスペースで行なっているので、他の学生のカウンセリングに触発されることがある(例:一緒に勉強している仲間のがんばる姿を見て、自分も負けちゃいけないという気持ちが湧いてきた、勉強への自覚が弱くて、一人では続けられなかったと思う)、②長期間の持続的対応:学部4年間からさらに卒業後までのケース、③ネットワークの広がり、が明らかになった。学習カウンセリングを通して留学生の「隠れたニーズ」を知ることによって、チューター活動(留学生応援団²⁾とよんでいる)の改善、日本語科目・T.A.活動・留学生教育の改善、留学生の会との連携などが図れる、といった面も挙げられている。留学生の具体的なニーズをジャーナルから分析すると、①アカデミック・ジャパニーズ:授業(教

科書・ノート)、レポート、ゼミ発表、試験、卒論、奨学金の応募書類など、②日本語補習、③日本語のレベルアップ:進学や将来の就職のための付加価値—日本語能力試験高得点対策、待遇表現、アクセント、スピーチコンテスト対応、大学院試験、④相談:学習方法、進学、生活など、となるが、傾向としては、①が日本語科目やチューターでの対応で補われるようになったこともあり、③の付加価値を求めるものがより多くなっている。留学生の多様化による、長期・短期の協定生・編入生への対応(後期入学生もあり)も、新たなものであった。課題として、留学生数の増加・多様化にあわせた担当者の増加がすぐには期待できないので、効率化のため、担当者の熟練度をどのようにあげていくか、一方で、チューターや他の日本人学生に相互学習として振り分けられる部分は何かを探っていくこと、留学生教育に関しては留学生アドバイザー³⁾がコーディネートしているが、学習カウンセリングでのきめ細かい対応の中で発見される「隠れたニーズ」が留学生教育の改善にはよいヒントとなっているので、留学生が、効力感をもてるような留学生生活の質の向上のため、学習カウンセリングの果たせる役割は大きい、ということが述べられている。併せて、図1の学習者(留学生)のネットワークが掲載されている。

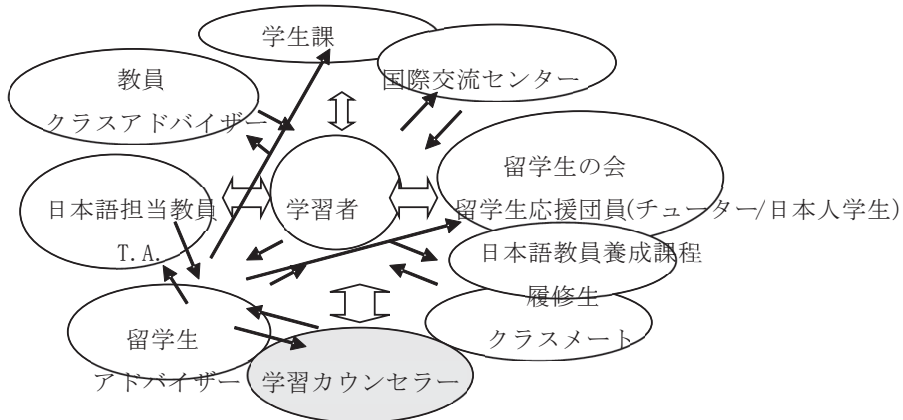


図1 学習者(留学生)のネットワーク

このように、これまで2回にわたり学習カウンセリングについて研究を行ってきた。そして、「留学生一人一人が学習面で授業の不足分を補いながら独り立ちし、また、充実した学生生活を送るようにサポートする」ために、①アカデミック・ジャパニーズを含む大学授業に関する学習、②日本語補習、③付加価値的学習などの、学習者のニーズとその変化に、きめ細かく寄り添いながら、主体的、持続的、そして、ネットワークの広がりを持つ学びを支援する点を意義としてきたことが明らかになっている。

しかし、その後、武蔵野大学の留学生数は以下の図2⁴⁾のように、1989年の40人から700人近くに大幅に増えている。キャンパスが増え、学部、学科、研究科の拡大など、留学生を囲む環境も大きく変化した。そこで、本研究ではその後の留学生の増加・多様化の中で継続して行われている学習カウンセリングの意義を再確認し、今後のための課題を探ることを目的とした。

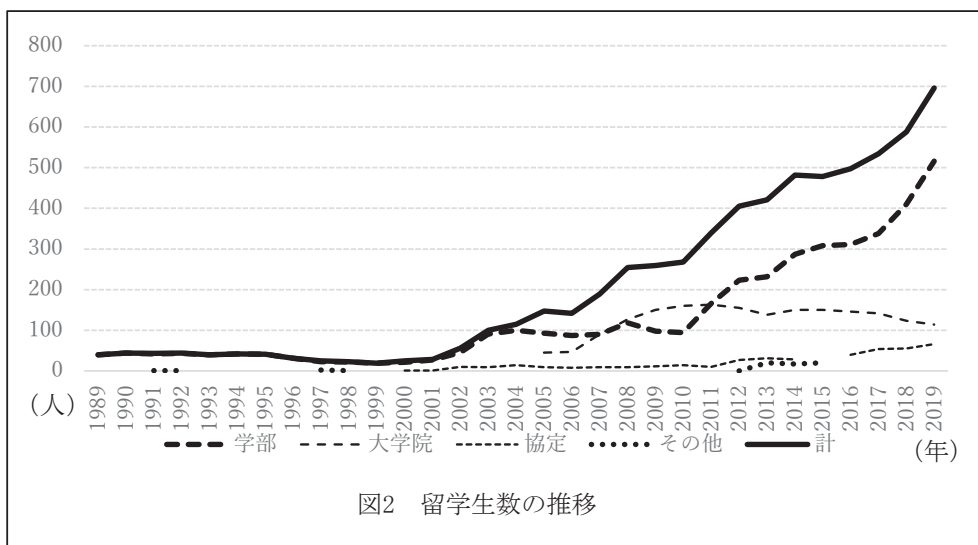


図2 留学生数の推移

3. 研究方法

カウンセラーは毎週報告書を提出することが求められているが、本研究では、5人のカウンセラーのうち、2011年から担当をしているカウンセラーHの報告書の記載内容（2018年度前期分）をデータとした。

カウンセラーHは2018年4月11日から8月6日までの17週、毎週10コマのカウンセリングを担当、総コマ数163コマに延べ149人が来室、対応した。カウンセラーHの担当キャンパスは武蔵野キャンパスであるが、ここでは、2018年度は全学9学部18学科の1年生、並びに、文学部をはじめとする4学部7学科の2年生以上、そして、全10研究科19専攻のうち7研究科8専攻の院生が授業を受けている。

研究データは、報告書がWordで提出されていたため、時間軸にそってExcelで、報告書同様、日時・対象学生・主な内容に分け、記述部分を意味のまとまりで段落に区切りナンバリングをした。得られた141の項目からKJ法で17のカテゴリーを抽出した。これらを相談の切り口である「相談カテゴリー」と派生した学習内容となる「学習カテゴリー」でさらにまとめた。

4. 結果

この期間の学習カウンセリングの延べ人数で149人、国籍、性別、学年、学科は表1のとおりである。前述のように、武蔵野キャンパスでは全学部1年生と日本文学文化学科をはじめとする4学部7学科の2年生以上が在籍しているため、学科には偏りが出る。

複数回利用者は13人である。表2の継続回数を見ると18回利用2人など11回以上の継続的来室者が9人いた。

表1 来室者の属性

国籍	中国	132
	ベトナム	11
	インドネシア	3
	台湾	1
	韓国	1
	不明	1
性別	女	109
	男	40
学年	1年生	54
	2年生	2
	3年生	50
	4年生	40
	卒業生	3
学科	日本文学文化学科	91
	日本語コミュニケーション学科	23
	人間科学学科	15
	経営学科	10
	グローバルビジネス学科	3
	環境システム学科	2
	人間科学学科	2
	環境学科	2
	経済学科	1

表2 継続回数の多い来室者

回数	人数
18回	2人
15回	2人
14回	2人
12回	1人
11回	2人
8回	1人
2回	3人

表3 141の記述項目とカテゴリー（記述項目が複数のカテゴリーにまたがる場合あり）

相談カテゴリー			数
1		アカデミック・ジャパニーズ	
	1	日本語チェック	55
	2	発表練習	5
	3	テキスト読み	9
	4	口頭表現	12
計			81
2		JLPT(日本語能力試験)支援	17
3		創作支援	27
4		会話	
	1	雑談	23
	2	心理的支援	55
	3	進学・進路相談	12
計			90
5		その他	24
総計			239
学習カテゴリー			数
1		日本語支援	
	1	文法	23
	2	語彙・漢字	42
	3	発音	9
	4	口頭表現	12
計			86
2		自律学習・学習ストラテジー支援	27
3		ネットワーク支援	14
総計			127

相談カテゴリーは、アカデミック・ジャパニーズ、JLPT（日本語能力試験）支援、創作支援、会話、その他の5カテゴリーからなる。

アカデミック・ジャパニーズとは、「日本の大学の勉学に対応できる日本語力」であるが、学習カウンセリングでも、当然のことながら、日本語で講義を聞いたり、テキストを読んだり、発表をしたり、レポートを書いたりする際の日本語についての相談が多い。

学習カテゴリーは、相談の切り口ではないが、相談の中で派生的な学習となっていることが抽出されたものをまとめたカテゴリーである。

ここで、カテゴリーの抽出例を挙げる。抽出例の左にある番号はその項目のナンバリングを示している。

来室者の目的は、はっきりしている場合と、そうでない場合があるが、「レポートの日本語チェック(いわゆるネイティブチェック)」にやってくる場合が、まず、多い。カウンセラーは日本語チェックをする中で、以下の16⁵⁾のように、本来の目的を越え、日本語上の改善点についても取り上げている。

16: レポートの日本語チェック、よく書けていた。ただ「～わけではない」という文法を数回使っていたが、間違った使い方になっていたため、次回この文法の練習をしようと思う。読み方ではやはり「死去→しきょう」など長音がはいるので聞き逃さないように指摘したい。また「紫式部日記→むささきしきぶ・につき」とはっきり二つの単語に分かれてしまうので一語として読むように注意。

16の場合、相談カテゴリー「アカデミック・ジャパニーズ」の「日本語チェック」、学習カテゴリーの「文法」、「漢字(読み方)」、「音声」がそれぞれ抽出された。

なお、対面の日本語チェックでは、書き手に内容を確認しながら行えるので、内容だけでなく、読み方、音声についての支援もできている。

20: 授業のプリントを読んだ。「人情→じんじょう」になり、漢字自体は易しいが読み方は案外難しいので、他の留学生にも読み方を確認しようと思う。またゼミクラスのことなどを話しながら学習カウンセリングの場でいろいろな話ができるので、ストレス解消になると言っていた。留学生たちは日常の中で緊張していることがかなりあると思うので、それがほどけていく時間になってくれればと思う。

20の場合、相談カテゴリー「アカデミック・ジャパニーズ」の「テキスト読み」、学習カテゴリーの「漢字」、「心理的支援」が抽出された。

このように、一つの記述項目は複数のカテゴリーを含んでいるが、ここからは、日本語チェックなど相談カテゴリーから派生する学びのつながりを記述例から挙げていく。

4.1 日本語チェックからのつながり

4.1.1 日本語チェック→文法

34: 問題なく書けていたが、一箇所だけ「～合って」が「～合いて」になっていて、留学生にとって動詞の活用の「て形」は意外と使いづらいのかもしれないと感じる。

4.1.2 日本語チェック→漢字→音声→ネットワーク

38: 「情報・助力」などの読み方が難しいようだった。「シ・シャ・シン」の発音が苦手だとのこと、次回その発音練習をすることにした。先日「人情→じんじょう」と読む留学生がいたため、

共通確認事項とし現在学習カウンセリングを受けているほとんどの学生に確認をした。「人情・人選・人柄」の例文を作り読み方を比べたが、「人情→じんじょう」と読んだ学生が半数もいて、「人選→にんせん」は数名、逆に「人柄」はほとんどの学生が読めていた。また「点数が辛い(甘い)」や「進物」などについても確認したが、全員がまだ聞いたことがなく未習語だった。

4.1.3 日本語チェック→語彙

48: レポートの日本語チェックは自分の意見をきちんと書いていた。その時に面接する人をなんというかと言う質問があり面接官と答えると、面接者もいいかとのこと。面接者だと面接する人も面接される人もどちらも表せることを説明し、「面接をする・される」の使い方を確認。よく理解できたようでもう間違わずに使えとのこと。わかりやすく説明することで自信にもつながるということを感じそのことを肝に銘じつつ、こちらの説明の仕方をもっと高めていく必要があることを痛感した。

4.1.4 日本語チェック→文章表現

73: レポートチェックは課題が二つ出ている、授業の内容に関するものとその授業を通して感じたことだった。感想の部分では最初ありきたりのことを書いていたが、話してくれることを聞いているとそのことを書く方が良く感じそのことを伝えると自分もそう思うがどのように書いたらいいかわからないとのこと。留学生にとっては話すことはできてもそれを文字化することは難しく、その差は大きいのだと改めて感じさせられた。まず話してくれたことをそのまま書き、言葉を足したり他の言葉に置き換えたりして完成させた。また話しながら書いていくと辞書も使わずに思いもかけない確な語彙が出てきて、それがさらにいい文章になっていく。留学生たちは力をもってそれを引き出せばいいこと、また最終的にそれが自力で出せるようになることを目指せばいいのだと痛感する。

4.1.5 日本語チェック→文法→自律学習

31: レポートの日本語チェックをしたがかなりしっかり書いていた。自分の自信のない箇所(始める／始まる)には傍線が引かれていて正しいかどうかの注意を払っていたが、(抜き出す／抜け出す)はノーマークでやはり自他動詞は難しいようだった。自他動詞に関してはどちらの使い方も示すようにし、間違いなく使い分けられるように理解できたかどうかの確認をしつつ訂正した。また間違っている箇所を指摘すると自己モニターがかなりきちんと訂正できた。本人いわく一人で書いている時には何とも思わないが、学習カウンセリングの場で読み返すと間違っている部分が見つかるとのこと。

4.1.6 日本語チェック→自律学習

27: すでに母国の大学に提出している卒論だったが、納得がいかない部分もあるとのこと、論文用語が使われていない部分を指摘。半年前と比べ助詞などの訂正は少なくなっていたと思うが、以前も同じ間違いをしていたという記憶がある動詞の活用が「顧みって」「与えっ

て」など直っていなかったなので、自己モニターがかかるようにしていきたい。

4.1.7 日本語チェック→文法→JLPT →自律学習

103: 卒論(母国のもの提出済み)の日本語チェックの続き。やはり動詞の活用、促音など日本語の基本的な部分で間違いが多く(1年目のときからなので)意識することを強調した。また昨年N1は合格していたが再度その試験を受けたようで、「心当たり」の意味はわかっていたが心当たりがある(ない)と同様の意味を表す例文がわからなかったらしい。動詞の活用、促音などに間違いが目立つ。マーカーを引き自己モニターがかかるようにする。言われると気づくので意識することを強調する。

4.1.8 日本語チェック→自律学習

123: 来週締め切りの卒論(母国の大学に提出)はまだ「最終章とおわりに」が未完。今週末書き上げる予定とのこと。訂正はほとんどなかったが、より自然な言い方になるように文の前後を入れ替えたりした。自分でも気になっていた部分だったがそうした入れ替えは気づかなかったとのこと。直し方を覚えたといっていたので、やはりメールではなく問いかけながら一緒に直していく方が最善だと感じる。

4.2. JLPT 支援からのつながり

4.2.1 JLPT →漢字→音声

3: N1を目指しているがいくつか問題が見えてきた。まず漢字が正確に読めず、振り仮名を振るときの「ウ音のありなし」や「濁音ありなし」も難しそうだった。「強硬:きょこう」「応募:おうほ」など。また「た」が「て」に聞こえ「耐震:ていしん」になり、「体勢:ていせい」になった。聞き取る力がないため振り仮名も間違えることが多いように思えたので、間違った振り仮名をこちらが読み、聞き取ってもらうようにした。「貯蓄:→ちよちく→ちようちく→ちよちく」学習が積み重なっていくようにしたい。

4.2.2 JLPT →自律学習

57: N1の語彙や漢字の読みはまだわからないことが多く、文章を組み立てる問題でもヒントを加えるとできるが自力では難しい。もう少し予習・復習が必要なことをアドバイスするが、一人だとなかなか解けないとのこと。少しヒントを加えることで「わかりました」という表情に変わるので徐々にヒントなしに移行し、自律学習につながるようにしていきたいと思っている。

4.2.3 JLPT →自律学習

122: N2の文法問題では「～ぎみ・～がち」また「だけ・きり」の違いが難しいようだった。またテキストの問題を解く前にその課の文法を見直す時間を作った後で、問題に取り組んだところ正解率が上がり、復習することの大切さを学生自身が気づいてくれた。

4.3. 創作支援からのつながり

武蔵野キャンパスには日本文学文化学科があり、創作を目指している留学生がいる。カウンセラー H は文学部出身で自身、詩や俳句の創作も行っていることから創作についての相談がしばしばある。

43: 本人が演劇部のために創作したという会話文の日本語チェックをした。キャラクターや全体のあらすじについて短くまとめてあると、内容がわかりやすいことをアドバイス。よく話し、書きたいこともいろいろあるようだった。

4.3.1 創作支援→語彙

87: 自作の作品は「詩」が2編。わかりにくい部分と表現の工夫が必要な部分とがあり感想を述べる。語彙を増やしたいとのこと。

4.3.2 創作支援→語彙

45: 課題の創作文章は人物の関係性や時間的な場面への動きなどがわかりにくく、そのことを指摘すると自覚があった。また辞書で調べたが出てこなかった「四面八方→四方八方」、「あるかなきか」などの未習語も覚えた。

以下は創作ではなく、手紙文であるが、語用論的意味を持つので挙げておく。

78: 手紙を出したい人がいてその人に当てた手紙の日本語チェックをする。説明を聞くと気持ちには好意的でありさらに良くなるための提案なのだが、そうした印象はなかったため、たとえば否定的な言葉は肯定+ない形にしたり、疑問の形を使ったりというアドバイスをしたところ反論はなかった。

33: 先週訂正した（手紙）部分を含め書き直したものを再チェックした。便箋にかなりびっしりと書いてあったが、前回とは「雲泥の差」（未習語を覚える）だった。前は「芸術として認めない」などという箇所があり、強すぎる表現になっているところを指摘、でも自分は留学生なので日本人のようにあいまいには書きたくないと言っていたが、今回その部分は「納得できない」という表現に変わっていた。書きたいことがありすぎて少々自己中心的なものにはなっているが、若者特有の熱意は感じ取れるように思う。

4.4. 会話からのつながり

4.4.1 会話→口頭表現

113: 今読んでいる本の内容や興味を持っていることについて、質問も含めいろいろ話してくれた。話すことで自分の考えがまとまり書く言葉に繋がっていくようだった。また最初の頃は一方的に話すだけだったが最近相手の話も聞きながら言葉のキャッチボールができるようになったように思う。

4.4.2 会話→JLPT→語彙

80: 先週、生活のスケジュールを立てたいと言っていた学生はN1やBJTの試験目標と数冊の読書目標をあげていたので、モチベーションが落ちないようにサポートしたいと思う。また漢字の読み方を取り上げて作ったプリントは面白かったようでもっと知りたいと言い、知らない言葉がまだいっぱいあるということに気づき、知らないことを覚えていく楽しみがあるのはいいと言っていた。知らないことを知る、そのことが楽しいという感想は嬉しくその楽しみを共感していきたいと思う。

4.4.3 会話→語彙

22: 最近、買い物をしていて聞き取れない言葉があり、聞き返したが2回とも聞き取れなかったようだ。気になったのでノートに書いてもらいやっと「ご自宅用」だとわかったとのこと。「ご自分で使われるんですか」などと違う表現をしてくれればわかるので、同じ言い方を繰り返すのではなく言葉を置き換えて言い直すとわかりやすいと話し合った。日本語教育の観点からもいい経験をしたようだった。また反対の意味で使われる「ご進物用」という未習語を提示。

4.4.4 会話→心理的支援+ネットワーク

37: もう一人やる気がなく連休は落ち込んでいたという学生がいて、これまでも悩んで落ち込んだことはあったがこのようなただやる気がないという気持ちは初めてのようだった。話しながら自分で納得できることを見つけたようで、学習カウンセリングに来てよかったとのこと。ただ話を聞くことやちょっとした言葉でも自力での解決に繋がるのは嬉しい。身体に痒みがあるようで(原因がわからないとのこと)ずっと掻いていたため、また4限の授業があるとのことだったので少し早めに終わり保健室に行ってもらった。

4.4.5 会話→心理的支援

54: 前は回を会話をする時間がなかったため話したいことがいろいろあったようで、友人が北海道で留学をしているが、学習カウンセリングやサポーター制度ではなく、自分はとてもいい環境にいるのでがんばりたいと言っていてこちらも嬉しく思った。

4.4.6 会話→心理的支援

115: 今週は会話の中で気になったことがあった。授業の中でわからないことがあり、クラスの人に聞くと教えてはくれるようだが、その後で「面倒くさい」と独り言のように言った言葉が聞こえたらしい。それも同じ体験を2度(違う日本人学生で)したようだった。本人はいい気持ちはしないけれど気にしないようにしていると言っていたが、聞きとれたと言うことは相手の学生がかなりはっきり言ったように感じた。

4.4.7 会話→心理的支援

25: 話し始めは授業のことや一人暮らしなどについて少々不安があると言っていたため、先輩

たちも同じようだったという話をすると、自分もスピーチコンテストやいろいろなことにチャレンジしたいと、気持ちが前を向いてきたように感じられた。

4.4.8 会話→語彙→心理的支援

58: 課題のレポートは他のクラスメートに面白くないと言われ、感想を聞きたかったようだ。

お薦めの本という課題だったので、自分が感動した部分を中心に書くという方法もあるという感想を伝えると、その方が自分も書き易いとのこと。またベトナムの季節の花や家族で行った旅行の写真などを見せてもらい「鉢植え・切り花・渡し船・船着き場・傾斜・工芸品・叔母」など未習語を覚えながら思いがけない写真旅行を楽しんだ。課題のレポートやテスト勉強だけではなく、留学生たちが自分の出来事、また考えたこと感じたことを自然に話し出してくれるのは学習カウンセリングのいい時間になっているように感じる。

5. 考察

学習カウンセリングにおいて、日本語チェックをはじめとする各相談カテゴリーから抽出されたつながりをまとめたが、ここでは、上記から見える学習カウンセリングならではの意義について考察したい。

5.1 個別的相談を入り口とした学びのつながり・深まり

大学の日本語の授業は主にアカデミック・ジャパニーズを扱っているので、その延長上に文法、語彙、音声などの日本語学習につながっていくことはあり、質問があればそれに対応しているが、それは20人近いクラス全体を対象としたものである。それに対して、学習カウンセリングでは授業以外にも学びたいという意思のある学習者の個別相談という点で、学習者個々のニーズに沿って、納得がいくまで対応ができるという点に意義がある。カウンセラーは個々の学習者の隠れたニーズに気づき、学びをつなぎ、深めている。このつながりは項目ナンバー 3・22・31・33・34・38・41・43・45・48・58・73・78・80・87・103・113 にも見られた。

5.2 継続的学習による自律学習支援

継続して学習カウンセリングを利用することによって自律的な学びがより深くなっていく様子が記述から読み取ることができる。項目ナンバー 27・33・57・103・113・122 にも同様の様子が見られた。

123: 来週締め切りの卒論（母国の大学に提出）はまだ「最終章とおわりに」が未完。今週末書き上げる予定とのこと。訂正はほとんどなかったが、より自然な言い方になるように文の前後を入れ替えたりした。自分でも気になっていた部分だったようだがそうした入れ替えは気づかなかったとのこと。直し方を覚えたといっていたので、やはりメールではなく聞いかけながら一緒に直していく方が最善だと感じる。(前述)

123 の場合、自己モニターによる自律学習へのつながりは継続的学習からなることがわかる。

31: レポートの日本語チェックをしたがかなりしっかり書いていた。自分の自信のない箇所(始める/始まる)には傍線が引かれていて正しいかどうかの注意を払っていたが、(抜き出す/抜け出す)はノーマークでやはり自他動詞は難しいようだった。自他動詞に関してはどちらの使い方も示すようにし、間違いなく使い分けられるように理解できたかどうかの確認をしつつ訂正した。また間違っている個所を指摘すると自己モニターがかかりきちんと訂正できた。(18回継続来室者)(前述)

5.3 会話などを入り口とする心理的支援

留学生は家族と離れていることもあり、心理的不安が高い者も多い。会話を入り口に、自然に心が開かれ、不安を語ることで、落ち着いていく例は4.6にも挙げたが、以下に加える。また、関連したカウンセラーの記述も併せて引用をする。項目ナンバー 25・54・58・115も同様の取り組みであった。

37: 今までも悩んで落ち込んだことはあったがこのようなただやる気がないという気持ちは初めてのようだった。話しながら自分で納得できることを見つけたようで、学習カウンセリングに来てよかったとのこと。(前述)

102: まず話したいことがあると言われたので聞くことを優先した。アルバイト先で中国では「犬を食べるのか→食べたことがあるのか→美味しいのか」と質問をされて、なぜそのような質問をされるのか戸惑ったようだった。

安心して話す相手がいることによって不安を語ることで学習への意欲を持つ。悩みを聞く時カウンセラーはエポケーで対応し、徐々にアドバイスではなく「やる気がない」に対して「どうしてやる気がなくなったと思う？」と問いかけると自分で考えて答えようとする。そうした時間のなかで留学生自身が気づき納得し、やるべきことをしようという気持ちにつながった。またアルバイトを始めたばかりのところでは不快な質問「犬を食べるのか」と聞かれかなりショックを受けていた。日本の「土用」の日に鰻を食べる習慣と似ていたため、それに関する未習語を示しながら話し合った。日本にも同じような意味を持つ習慣や食べ物があることを知り、不快な気持ちがなくなったようで質問した人にもその説明をしたかったと言っていた。学習カウンセリングの場で話すことで意味が理解でき不快感がなくなった。そのように納得できること、それも外から納得させられるのではなく、自分自身で納得がいくという話しあう時間を持つことは大きい。また同時に日本のそうした習慣にもとても興味を示す結果になった。(カウンセラーのまとめより)

上記3つの意義に加え、以下の2点も意義として考察される。

5.4 ネットワークの広がり

5.4.1 卒業生との繋がり

110: 卒業生の Y さんが突然来訪。仕事を初めて3カ月経ち、ようやく休みが取れたというか3カ月目の洗礼を受けているようで将来について悩んでいるようだった。大学時代を懐かしく思い出す時に学習カウンセリングの時間も同じように思い出してもらえることは本当に嬉しく、卒業生たちにも励ましの言葉を送り続けたいと思う。

5.4.2 先輩、後輩の繋がり

5: 就職か大学院進学かまだ迷っている様子だったが、大学院を受験した先輩たちを紹介することを話すとさらに表情が明るくなって頑張りたいとのこと。サポートできることは継続していきたいと思う。

6: また同じ国の後輩に学習カウンセリングを薦めてくれた。後輩の B さんは時間割がまだ決まっていないようで後日、曜日の相談に来ることになった。

12: E さんが先輩から学習カウンセリングのことを聞いてきましたと来室。興味を持っている漢服のこと、サークルに参加希望で探していること、また目の調子が悪く眼科に行きたいことなど、多方面にわたっての会話になった。

5.4.3 学習者、カウンセラー同士の繋がり

132: 木曜日の5限に暑気払いパーティを行った。授業やアルバイトがあり参加人数は少なかったが、日本語の言葉遊びなどをしながらみんなよく話しよく笑った。楽しい時間が夏休み前の最終まで頑張る力に繋がってくれたらとても嬉しい。

5.5 カウンセラーの気づき(成長)

学習カウンセリングを行う中でカウンセラーもまた様々なことに気がつき、成長している。以下はその例である。

48: 面接する人を何というかという質問があり面接官と答えると、面接者もいいかとのこと。面接者だと面接する人も面接される人もどちらも表せることを説明し、「面接をする・される」の使い方を確認。よく理解できたようで、もう間違わずに使えるとのこと。わかりやすく説明することで本人の自信にもつながるということを感じ、そのことを肝に銘じつつ、こちらの説明の仕方をもっと高めていく必要があることを痛感した。(前述)

66: レポートの下書きはほぼ問題はなかったが、文法の問題は「～うちに・～うちは・～うえで」など間違いが多かった。説明文の例題は理解できても、内容の違う問題になるとわからなくなってしまう。ただ少しヒントをだすとわかるので、他のテキストに載っている問題も集めてしっかり復習しようと思う。レポートの第一稿でいろいろ問題を指摘されて

いて、どのように直していくかを考えていく中で少しヒントを加えると自分でアイデアが生まれてきた。留学生たちが持っているその自力のスイッチが色々な場面で上手に作動するようにこちらも的確な最少ヒントを心掛けたいと思う。

留学生が気づき自律していくのと同じように、カウンセラーもまた気づきがあり成長していくように思う。何より学習カウンセリングが一方通行ではなく双方向として影響しあっているからではないかと考える。学習カウンセリングの場が、共に話し考え喜ぶことを共有していることの意義は大きい。(カウンセラーのまとめより)

6. まとめと課題

本研究では2004年度以後の留学生の増加・多様化の中で継続して行われている学習カウンセリングの意義を再確認し、今後のための課題を探ることを目的とした。

その結果、①個別的相談を入り口とした学びのつながり・深まり、②継続的学習による自律学習支援、③会話などを入り口とする心理的支援、④ネットワークの広がり、⑤カウンセラーの成長、の5つの学習カウンセリングならではの意義が考察された。

これは、2004年度までの「①アカデミック・ジャパニーズを含む大学授業に関する学習、②日本語補修、③付加価値的学習などの学習者のニーズとその変化にきめ細かく寄り添いながら、主体的、持続的、そして、ネットワークの広がりを持つ学びを支援してきた」、とする「学習の内容」が、「どのようなつながり・深まりをもって行われたか」について具体的に明らかにすることで、学習カウンセリングの意義をより浮き彫りにできたと考える。

中国人留学生が漢字の読みに躓いていることなど、日本語教育上の示唆となる点がいくつか見られたり、学習カウンセリング自体が日本語の実際使用の場となっていることも改めて確認された。

なお、カウンセラーには「論文指導は専門分野の指導教員がするので立ち入らない」「日本語科目の宿題については日本語の成績に関わるので手を出さない」ことを依頼している。

留学生の増加、多様化の進む近年、個々の留学生に寄り添い、日本語支援を切り口に心理的支援も行いながら留学生の学びをより深める本実践は、手間暇がかかる取り組みのように見えるが、「留学生一人一人が日本語を切り口に学習面で授業の不足分を補いながら独り立ちし、また、充実した学生生活を送るようにサポートする」ものとして、今後も、より活性化したものに改善をはかっていきながら、研究も進めていきたい。

学習カウンセリング報告は国際課、並びに日本語統括責任者にも毎週共有されることで、留学生対象の生活支援や日本語科目の改善、さらには危機的問題の早期発見にもつながっていることを加えておく。

より多くの留学生への来室促しが課題であるが、今後は、学習者への調査を行い学習者側の意識も調査、また、他のカウンセラーの報告の分析も行いたい。

*本研究は日本語教育学会2019年度第1回支部集会(北海道支部)におけるポスター発表を大幅に改定したものである。

注

- 1) 2019年度は武蔵野キャンパス1号館1階国際交流スペースの一部、有明キャンパス1号館5階アジアスペースで行われている。
- 2) 現在はGHC (Global Headquarter Circle) となっているが、当初は留学生応援団というグループで留学生のサポートをしていた。
- 3) 学科のアドバイザーとは別に留学生を対象としたアドバイザーがいた時期がある。留学生の増加で、現在は特においていない。
- 4) 国際センター報、国際課のデータ、などを合わせ堀井が作成。
- 5) 記述項目は時間軸に沿ってナンバリングをしている。

参考文献

- (1) 大西晶子 (2018) 「留学生層の多様化に留意した学生支援—文化的多様性に対応した留学生支援の実践—」『留学交流』Vol.93,1-9
- (2) 天坂華織・平井君代・堀井恵子 (2019) 「留学生に対する日本語学習カウンセリングの意義と課題3-学習カウンセリング報告の分析から—」『日本語教育学会 2019年度第1回支部集会予稿集』49
- (3) 林炫情・森原彩 (2017) 「学生の自立学習を促進する言語学習支援活動の取組みの成果と課題：学習サポーター制度とアドバイジングセッションに焦点をあてて」『山口県立大学学術情報』第10号,177-187
- (4) 堀井恵子・山崎けい子 (1998) 「学部留学生における学習カウンセリングの意義と課題」『日本語教育学会秋季大会予稿集』212
- (5) 堀井恵子・坂井菜緒 (2003) 「学部留学生における学習カウンセリングの意義と課題：その2」『日本語教育学会秋季大会予稿集』221-222
- (6) 三隅友子 (1995) 「学習カウンセリングの可能性—学習方法の意識化の試み—」『第8回日本語教育連絡会議報告発表論文集』65-74
- (7) 日本学生支援機構平成30年度外国人留学生在籍状況調査結果
https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2018/index.html (2019年11月17日閲覧)
- (8) 文部科学省大学分科中教審大学分科会第19期将来構想部会配布資料4
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/042/siryo/1405510.htm (2019年11月17日閲覧)